

松江北高の国語学習について

国語の学習とは、「読解力」「思考力」「表現力」を養うことである。文字や言葉を通して相手の言いたいことを理解し、思考し、自分の言いたいことを表現する。これが国語の学習である。

しかも高校の国語の授業では、1000年前の日本人が考えていたことや、2000年も昔の中国人が思っていたことを学ぶチャンスがある。古典の学習については入学後のお楽しみとして、ここでは現代文の学習について紹介したい。

★（１）現代文の学習の仕方について

予 習

【評論編】

①音読する。とにかく読む。

声に出して読むこと。黙読はしない。その際、接続詞や指示語、繰り返されている言葉に注目するとよい。また、対比されているもの（地理的な対比、時間的な対比）に注目する。

②重要語句の意味調べ

③段落を、意味段落に分け、全体の構造をつかむ。

④主張の段落を探す。

【小説編】

①音読する。とにかく読む。

声に出して読むこと。黙読はしない。その際、場面や登場人物の心情の変化に注目するとよい。

②重要語句の意味調べ

③段落を、意味段落に分け、全体の構造をつかむ。

④主題を考える。

授 業 中

「常に考えながら授業を聞く」 ← もっとも基本的かつ大事なこと。

予習時の自分の考えと授業とを比較してみる。なぜ先生や友達はこのように考えているのかに注目する。正解でも間違いでもどちらでもかまわない。なるほど他の人はこう考えているんだと分かるまで考えること。

復 習

授業中は分かったつもりになる。家に帰り、必ずもう一度授業で行われたことを再現してみる。友達どうしで教えあうのもよい。

★（２）読書について

読書こそ、国語力を高めるための、遠く見えて、実は一番近い道である。活字を読むことに抵抗のある人は、まずは自分の興味のある分野から読み進め、しだいに幅広い分野へと広げて行ってほしい。また、よく言われることだが、本を読むことは、時間や空間を越えてさまざまな人の人生を追体験することに通じる。心のやわらかい中学生、高校生時代の読書はきっと生涯の財産になる。

★（３）言語への関心を深め、言語感覚を磨くこと

言語は我々の日常生活に深く関わりを持っている。日常使う言葉や表現、書く文字等にも意識して日々を送ってほしい。日記や読書ノートをつけるのも思考を深め、表現力を養うのに役立つ。北高の国語の授業では「書く」学習の機会がたくさんある。定期テストにおいても百字程度の記述問題はざらに出題される。中学校のうちに「書く」ことの抵抗感を減らしておいてほしい。

また、日々、新聞のコラムや社説に目を通すことで、文章のまとめ方や物事の考え方、表現等を学ぶことができる。このような小さなことの積み重ねが言語感覚を磨き、ひいては国語力につながっていくのである。